

# Focus Vol.34

長洲町でキラリ輝く人たち



▲日々の練習でも、一投一投気持ちを込めて練習に打ち込む。

やすし  
**西浦 靖**くん (新山)

第46回 ジュニアオリンピック

陸上競技選手権大会

中学3年男子砲丸投げ 熊本県代表

10月23日から10月25日までの3日間、神奈川県日産スタジアムで開催された第46回ジュニアオリンピック陸上競技選手権大会。熊本県予選会中学3年男子砲丸投げで見事優勝し、県の代表として全国大会へ出場したのは、長洲中学校3年生の西浦靖くん。

今大会が初めての全国の舞台となるが、やはり全国大会となると、九州大会とはまた違う雰囲気だった。「他の選手の体格や、声の大きさ、会場の雰囲気などどれも圧倒されるものばかりでした。本当に『すごい』の一言でしたね」と大会を振り返る。結果は12m44。自己ベストとなる記録を出すことができた。「今までにないプレッシャーの中で自己ベストの記録を出すことができました。これからの自信につながっていきたいですね」

西浦くんが砲丸投げを始めたのは中学1年生から。陸上をやっていた、いとこの存在が大きかった。「いところが10種競技をやっている姿を見て、陸上に興味を持ち、中でも砲丸投げが一番自分に合っていると思います。陸上を始めてからはテーピング

の巻き方やシューズの選び方などを教えてもらったり、練習を見てもらったりしました。きっかけをくれたいとこに感謝ですね」と笑顔を見せる。トレーニングを重ねていくうちに、記録がだんだん伸び始め、それが楽しくなり、これまで以上に練習に打ち込むようになった。

しかし、中学3年生が投げる砲丸の重さは5kg。過度な練習は、肩などを壊してしまう危険性があった。「練習をすればするほど良いというわけではありません。限られた練習量の中で、一投一投に集中し、気持ちを込めて練習をしていました」たゆまぬ努力の結果、今回ジュニアオリンピックという全国の大舞台に立つことができた。

「これまで続けてきて良かったです。今回とても刺激になる経験ができました。これを糧にこれからも続けていきたいと思っています。目標は、もっと力を付けて、もう一度全国の大舞台に立つことです」と力強い。来春からは、高校に進学。次の目標は「インターハイに出場すること」ときっぱり。夢に向けた挑戦は、始まったばかりだ。

